

探訪 北の風景 ③

年間300万人が訪れる
札幌ドーム
札幌市・豊平区

青木和弘

「うわあ、でか！」

銀色に輝く札幌ドームを見上げて少年が思わず声をあげた。北海道日本ハムファイターズの試合開始の1時間前、札幌の地下鉄東豊線福住駅からドームに向かう野球ファンが、列をなして歩道を埋める。その先に巨大なUFOを思わせる銀色の構造物がビルのすき間からチラチラと姿を見せ、間もなく広い交差点で全容を現す。

歴史的景観が郷愁を呼び起こし人々を引きつけるが、新しくても斬新なデザインの建造物はあるが、外から眺めるだけでなく、スポー

ツやコンサートなどで訪れ、感動を覚えると、一層、思い入れが深まる。札幌ドームは、まさにそういう施設である。

かつて東京オリンピックのメイン会場となった国立競技場は、建て替えのため取り壊しになるが、惜しむ声が多い。そこに集い歓喜した思い出がそうさせるのだが、札幌ドームもまた、人々の心をつかみ、いつまでも惜しまれるような施設になることだろう。

2001年6月に開業した札幌ドームには当初、翌年のサッカー日韓W杯が終わると、やがて赤字が膨らみ「お荷物」になるという懸念があった。道内初の4万人を超える観客席や、537億円という巨額な建設費などの事業費と多額の維持管理費のせいで。必要な収益を上げるには、集客力のあるプロ野球球団の誘致で、施設の稼働率を上げる以外に活路はなかった。

日本ハム札幌移転から3年目の06年10月24日、新庄剛志選手や稲葉篤紀選手らの活躍でリーグ優勝を果たした日本ハムは、札幌ドームに中日ドラゴンズを迎え、日本シリーズ第3戦を戦い6対1で勝利した。有料入場者数は4万1798人。ドーム運営会社である株式会社札幌ドームの社長として球団誘致に取り組んだ桂信雄元札幌市長は、「満



ファイターズのリーグ優勝に沸く満員の札幌ドーム＝2006年10月

員のスタンドを見るたび、うれしさが込み上げる。ここまで順調にいくとは……」と言って、目を細めた（北海道新聞06年10月25日夕刊）。

昨年度の札幌ドーム稼働率は73・4%、開業から本年5月末までの来場者数は3359万5060人で、近年の年間集客数は300万人前後。ドーム運営会社は12年連続の黒字で当初の懸念を吹き飛ばした。

札幌ドームは、さまざまなスポーツやコンサート、催事に利用できる多目的施設で、サッカーの試合では、天然芝を屋外から浮かせてドーム内に移動させる設備がある。地上4階建てだが、床面は地下2階レベルまで掘り下げ、ドームの見かけ





スポーツ観戦やコンサートなどで年間300万人が訪れる札幌ドーム＝2014年6月



ファイターズの試合に詰めかけた観客の列＝2010年7月

上の高さを抑え、周辺の自然環境との調和を図っている。

ドームが建設された場所は、農林水産省北海道農業試験場（現北海道農業研究センター）の甜（てん）菜試験農場の跡地で、戦前は、日本のめん羊飼育を牽引した月寒種羊場があった。その敷地の一部が羊ヶ丘展望台で、一帯はいまも同研究センターの敷地で、豊かな緑をたたえている。

国道36号を渡り北へ行くと農業専門学校の八紘学園があり、畑や白樺の並木、レンガ造りのサイロなどが建ち並び牧歌的な雰囲気があった。ここは札幌ジンギスカン発祥の地としても知られ、7月にはみことな花が咲き誇る菖蒲（しよぶ）園を多くの市民が訪れる。